

川芎茶調散

【出典】

『太平惠民和劑局方』 卷二・傷寒

治丈夫婦人諸風上り攻め、頭目昏重、偏正ノ頭疼、鼻塞り、声重ク、傷風壯熱、肢体煩疼、肌肉蠕動、膈熱痰盛シ、婦人血風攻症シ、太陽ノ穴疼ヲ治ス。但ダ、是風氣ニ感ゼバ、悉ク皆之ヲ治ス。

右件細末ト為シ每服貳錢 食後ニ茶清ニテ調下ス 常ニ服スルハ頭目ヲ清ス。

- 偏正頭痛 「偏はかたかたの痛み、正は両方の痛み」(衆方規矩 感冒門)
- 血風 「玉案に云わく、血風は經水逆上し脳間をせしめ頭目悶迷して人事を省みず、甚だしうして滿面滿頭皆赤斑となるに至る。此れ經水適臨み、風邪に感冒するに因りて致すところなり。此の症、産後に風邪を受くるものに間これあり」(病名彙解 蘆川桂洲)
- 太陽穴 經外奇穴、こめかみ部分、別名前関

【処方構成】

川芎 3 香附子 3 白芷 2 羌活 2 荊芥 2 防風 2
薄荷 2 甘草 1.5 細茶 1.5

<参考> 原点では香附子は入らず細辛が入るが、但し壹本に「細辛無し香附子有り」と記載

※北里研究所東医研漢方処方集より

<p>右件為細末、每服貳錢、食後茶清調下。常服清頭目、滲濕湯。治寒濕所傷身重、腰冷、如坐水中、小便或澀、或出大便溏泄、皆因坐卧濕處、或因雨露所襲、或因汗出衣衾冷濕、久久得之、腰下重疼、兩脚疼、痛腿膝、或腫、或不腫、小便利、反不渴、悉能主之。</p> <p>蒼朮 甘草炙 白朮 各壹兩 茯苓 去皮 乾薑 炮 各貳兩 橘紅 丁香 各壹分</p> <p>右以咀、每服肆錢、水壹觔、半棗壹枚、置釜片煎、茶分食、前溫服之。</p>	<p>和劑局方卷二</p> <p>防風 壹兩半 薄荷 葉 不見火 捌兩 ○廿</p> <p>川芎 各肆兩 荊芥 去梗 甘草 炙 羌活 各貳兩 細辛 去塵 壹兩</p>	<p>涎行步喘乏、或霍亂吐瀉、藏腑虛寒、下痢赤白、並宜服之。</p> <p>厚朴 去皮薑製 藿香 去枝土 陳皮 去白 半夏 煮 蒼朮 米泔浸 甘草 煨 各等分</p> <p>右為散、每服參錢、水壹觔、半生薑、棗子貳枚、煎至捌分、去滓、食前稍熱服、忌生冷油膩毒物、若四方人不伏、水土宜服之、常服能辟嵐氣、調和脾胃、美飲食、川芎茶調散。治丈夫婦人諸風上攻、頭目昏重、偏正頭疼、鼻塞、聲重、傷風壯熱、肢體煩疼、肌肉蠕動、膈熱痰盛、婦人血風攻症、太陽穴疼、但是感風氣、悉皆治之。</p>
--	---	---

【古典での記載】

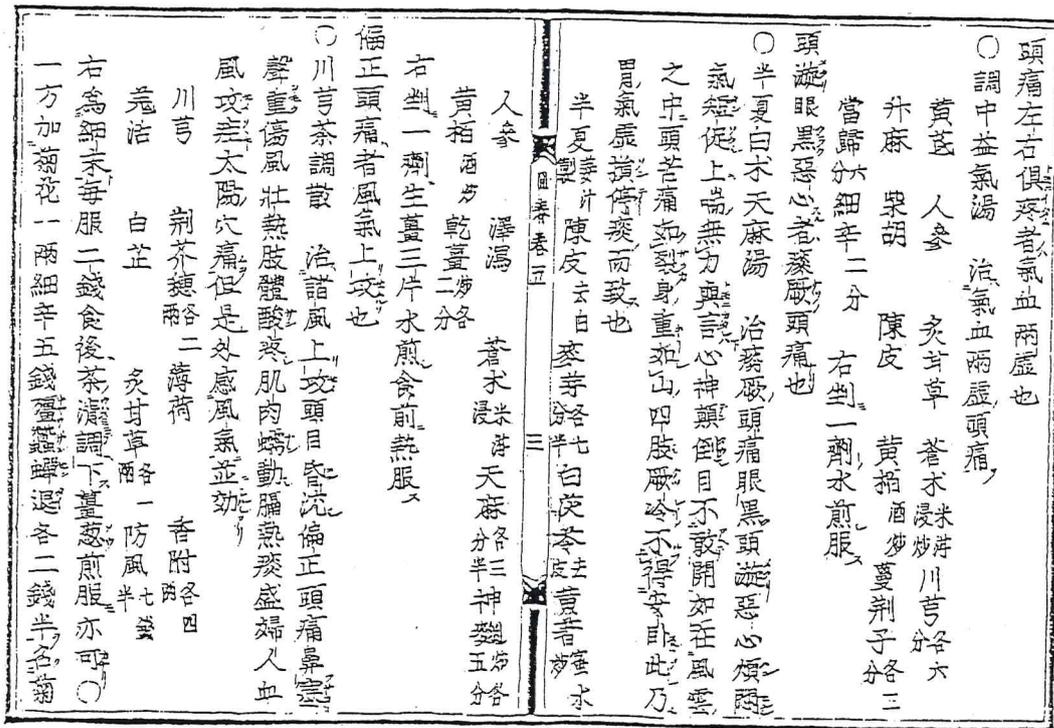
『万病回春』 卷之五・頭痛

治諸風上り攻メ …(「和劑局方」同文)…

姜葱煎服モ亦可ナリ。一方加菊花一両、細辛五錢、僵蚕・蟬退各二錢半ヲ加エ菊花茶調散ト名ヅク。

※清上鑷痛湯「寿世保元」

川芎 白芷 羌活 防風 甘草 菊花 細辛
 黄芩 蒼朮 麥門冬 当帰 独活 生姜 蔓荊子



「万病回春」(和刻漢籍医書集成より)

〔1〕 衆方規矩／曲直瀬道三(1507～1594年)

- 1) 川芎茶調散は、諸風^①が上がり攻め(気が上衝する)、頭目が昏沈し、頭痛、偏頭痛を發し、鼻が塞がり、声が重くなるもの、傷風で壯熱を發し、肢体が酸疼し、筋肉が蠕動するもの、膈熱^②を發し痰が盛んなもの、婦人で、血風^③が攻め注ぎ、太陽穴^④が痛むものを治す。このほか風氣に感じたものを治す。
- 2) 按ずるに、この方は風氣に冒されたもの、ならびに婦人の血風によるものの頭痛に最も効果がある。

- 〔1〕
- ① 諸風(しよふう)：風邪が他の病と結びついて発すると考えたさまざまな疾病を指す。風寒、風熱、風濕、風燥などと稱するものがある。
 - ② 膈熱(かくねつ)：胸中の熱。
 - ③ 血風(けつふう)：瘀血などの血証と外邪が重なって起る病。
 - ④ 太陽穴(たいようけつ)：このかみのまわりにある経穴。

〔2〕 増広 医方口訣集 頭書／北山友松子(?～1701年)

私は『和劑局方』に「風氣に感ずれば」とあるのが川芎茶調散を用いる要訣であると思う。もともと風氣を蓄えている人、あるいは傷風に患って薬をのみ、風邪は去ったかのように見えるが、なお頭痛が残るものは、この処方を用いると必ず効果がある。これは風氣がなお上部に留まっているためである。方下に記されている「諸風上攻」の4字も、この処方を用いる眼目である。

〔3〕牛山活套／香月牛山(1656～1740年)

頭痛の証は、外感、内傷いずれの病にも兼証として見られるものである。それぞれの場合に応じた治方を考えるべきである。多くは外来の風寒、暑湿の気を感じて頭痛となるので、発散をはかるのである。軽いものは川芎茶調散を散薬にして用いると効果があり、あるいは芎芷香蘇散^①を用いる。頭痛の脈は多くは弦緊数である。

〔4〕方読弁解／福井楓亭(1725～1792年)

川芎茶調散は一切の頭痛に用いる。川芎散^①に比べると、熱の軽いものによい。

〔5〕方彙口訣／浅井貞庵(1770～1829年)

川芎茶調散を用いる目標は、「諸風上攻」、婦人においては「血風攻注」というのが源であり、風熱^①を軽く散らす効がある。本方の主治^②にある「太陽穴痛」は、両太陽の痛みであろうと推察され、「蠕動」とはびくびくすることで、俗に寸白という。

〔6〕校正方輿輒／有持桂里(1758～1835年)

川芎茶調散は内因、外因を問わず、また頭痛、偏頭痛にかかわることなく、一切の頭痛に用いて効験がある。

〔7〕梧竹樓方函口訣／百々溟陰(1773～1839年)

川芎茶調散は邪が入って手強く頭痛するのを治す方である。もちろん、鼻が塞がり、声が重いという外症が正面の証であるが、それから転じて、外邪の気はなくても、ただ風気で上攻が強く頭痛することが婦人などに多くあるものであり、この方がたいへんよく効く。この症で、目が赤く血走って痛むものなどがあり、菊花を加えてやると甚だ効がある。

〔8〕瘍科秘録／本間棗軒(1804～1872年)

- 1) 鼻淵の治法は脳漏の諸方を選んずるが、また川芎茶調散、小柴胡湯加石膏も奇験を奏するものである。また五物解毒湯^①加辛夷を用いることもあり、外用には蒂辛散を吹入する。
- 2) 頭痛の内薬は、川芎茶調散、防風通聖散を選んずる。また、蒂辛散、至靈散^②を鼻中へ吹入する。(中略)寒熱のあるものは柴胡桂枝湯、嘔吐の甚だしいものは半夏瀉心湯、六君子湯、虚冷に属するものには半夏白朮天麻湯、沈香天麻湯^③を選んずる。

〔3〕

①芎芷香蘇散(きゅうしこうそさん)：蘇葉、香附子、陳皮、甘草、生姜、葱白、川芎、白芷、羌活、薄荷の10味(濟生方)。

〔4〕

①川芎散(せんきゅうさん)：川芎、香附子、石膏、細辛、甘草、荊芥、薄荷、菊花、茵陳、槐花、羌活、防風の12味(維繩)。

〔5〕

①風熱(ふうねつ)：風邪による熱。
②「和劑局方」。

〔8〕

①五物解毒湯(ごもつげどくとう)：荊芥、金銀花、芎藭、蘇葉、大黃の5味(原南陽)。

②至靈散(しれいさん)：雄黄、細辛の2味(肘後)。

③沈香天麻湯(じんこうてんまとう)：沈香、益智、烏藥、天麻、防風、半夏、附子、羌活、甘草、当帰、姜炭、生姜の13味(寶鑑)。

【適応症】

感冒・インフルエンザなどの頭痛、片頭痛、血の道症、緊張性頭痛

日本医師会医薬品カードより

【鑑別】

1 感冒の初期の頭痛

桂枝湯 (頭痛が主要症状ではない)

麻黄附子細辛湯 (悪寒が強い)

香蘇散 (頭重、気鬱が主)

2 感冒後の頭痛、鼻炎・副鼻腔炎

葛根湯加川芎辛夷 (急性症状が強く胃腸が強い)

桂姜棗草黄辛附湯 (炎症症状が強く冷えが強い、胃腸虚弱ではない)

辛夷清肺湯 (頭痛が主ではない)

3 その他の頭痛

半夏白朮天麻湯、呉茱萸湯、五苓散、当帰芍薬散、加味逍遙散

「臨床応用万病回春健保適用処方解説 川芎茶調散」松田邦夫・稲木一元 漢方診療 10.1.1991 より

【現代医学的研究】

頭痛に対する効果

飯島一彦他: 片頭痛 6 症例に対する漢方方剤の効果: 日本ペインクリニック学会第 22 回総会抄録、1988
・21才男性、群発頭痛に対し川芎茶調散投与にて軽快

大宜見義夫: 急性症状における漢方製剤の即効性の検討: 日本東洋医学会雑誌 46,2,1995

・急性症状(頭痛・咳・腹痛・悪心など)に対する漢方製剤(エキス剤)の効果

頭痛に対する川芎茶調散の効果(10/10 例)

・・(表 1)

ドーパミン増加作用

Shinici Muramatsu, et al: Senkyu-chacho-san increases dopamine in the rat striatum: 和漢医薬誌 15,1998

・ラット線状体におけるドーパミンの上昇(ドーパミンの代謝抑制?)

・・(表 2)

池口邦彦他: パーキンソン病の運動障害に対する川芎茶調散の効果について: 第 40 回日本神経学会録、1999

・パーキンソン病患者に川芎茶調散エキスを投与(50~75 日) 14/22 例に運動障害の改善を認めた

表1

主訴別にみた各製剤の即効性の検討——その他の訴え——

主訴：頭痛			
漢方ニキス製剤名	例数	有効	不変
五苓散	24	14(58.3%)	10
川芎茶調散	10	10	0
桂枝人參湯	7	2	5
呉茱萸湯	6	5	1
黄連解毒湯	5	2	3
真武湯	4	3	1
五積散	3	2	1
麻黄附子細辛湯	3	0	3
小青竜湯	2	2	0
人參湯	1	1	0
苓桂朮甘湯	1	0	1
計	66	41(62.1%)	25

主訴：脱力倦怠感			
漢方ニキス製剤名	例数	有効	不変
真武湯	4	2	2
柴胡桂枝乾姜湯	3	1	2
人參湯	1	0	1
黄連解毒湯	1	0	1
計	9	3(33.3%)	6

主訴：悪寒			
漢方ニキス製剤名	例数	有効	不変
真武湯	4	4	0
麻黄附子細辛湯	3	3	0
柴胡桂枝乾姜湯	1	0	1
計	8	7(87.5%)	1

主訴：頭重感			
漢方ニキス製剤名	例数	有効	不変
川芎茶調散	2	0	2

主訴：めまい			
漢方ニキス製剤名	例数	有効	不変
苓桂朮甘湯	1	0	1

主訴：関節痛			
漢方ニキス製剤名	例数	有効	不変
真武湯	1	0	1

主訴：のぼせ			
漢方ニキス製剤名	例数	有効	不変
黄連解毒湯	4	3	1
川芎茶調散	1	1	0
計	5	4(80.0%)	1

主訴：気分不良			
漢方ニキス製剤名	例数	有効	不変
苓桂朮甘湯	2	1	1
黄連解毒湯	1	0	1
計	3	1	2

※ () は有効率%

表2

Levels of dopamine, HVA, and DOPAC in the striatum of rats treated with SC, RJ, or water (control) for 7 days.

	DA	DOPAC	HVA	DOPAC/DA
Control	10.51 ± 2.75	1.62 ± 0.32	1.21 ± 0.38	0.157 ± 0.022
SC 125 mg/kg	14.15 ± 2.75*	1.79 ± 0.29	1.52 ± 0.43	0.128 ± 0.016*
SC 750 mg/kg	12.97 ± 1.96	1.86 ± 0.49	1.34 ± 0.35	0.142 ± 0.025
RJ 125 mg/kg	11.07 ± 1.78	1.94 ± 0.67	1.15 ± 0.53	0.172 ± 0.029
RJ 750 mg/kg	10.89 ± 2.51	1.88 ± 0.44	1.08 ± 0.33	0.174 ± 0.022

Values are means ± SD expressed as ng/mg tissue weight. n=8-10. *P<0.05.
 SC: Senkyu-chacho-san, RJ: Ryo-kei-jutsu-kan-to, DA: dopamine,
 DOPAC: dihydroxyphenyl acetic acid, HVA: homovanillic acid.